

学校の授業等で活用できる「親学習」研修

平成30年7月30日（月曜日）

大阪府の親学習教材「『親』をまなぶ・『親』をつたえる」を使用したワークを体験し、その活用方法等を学ぶことで、学校の授業における「親と自分の関係」「親となることの意味」についての学習や、教職員や保護者を対象とした学びの機会としての「親学習」実施を支援するため、教職員を対象に学校の授業等で活用できる「親学習」研修を実施しました。

1. 日時／場所 平成30年7月30日（月曜日）／大阪府教育センター
2. 参加者 38人（学校教職員、行政担当者）
3. 内容

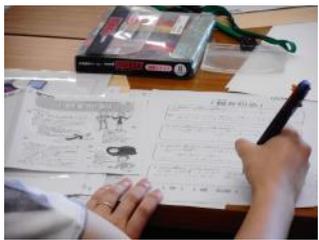
（1）大阪府より「親学習ついて」

地域教育振興課より、「親学習」の特徴や活用方法、必要性等について説明しました。

（2）ワークショップ「教材を活用した授業展開について」

豊中市で親学習リーダーとして活動し、大阪府の家庭教育支援スーパーバイザーとしても活動いただいている方より、まず、「実践報告」として、親学習教材「接する」をもとにした「たまごのワーク」（たまごを赤ちゃんのみたてて、赤ちゃんへの関わり方を体験・考えるワーク）について、学校での実践事例をご紹介いただきました。

次に、ワークショップ①として、親学習教材「見守る」を使ったワークの紹介と体験を行いました。三つめとして、ワークショップ②では、親学習教材「親を知る」を使った親学習を体験しました。親学習を体験するだけでなく、学校で実践した際の様子、児童・生徒や保護者の感想なども紹介いただきました。

		<p>親学習教材「見守る」より</p>   
<p>【実践報告】 「たまごのワーク」の親学習実践をご紹介いただきました。</p>	<p>【ワークショップ①】 親学習教材「見守る」に掲載された写真を見て、そこに描かれているストーリーを想像しました。同じ写真を見て、参加者それぞれによってとらえ方が異なり、違ったストーリーとなることに気づきました。</p>	
		 
<p>【ワークショップ②】 親学習教材「親を知る」のエピソードを読み、登場人物（親と子）の気持ちを考えました。次に、自分に置き換えて、どう言うか、どう言うてほしいか等を考えました。最後に「親に求める5つの条件」を考えました。「子どもを愛する」「最後は味方になってくれる」「失敗させる勇気を持つ」などの意見がありました。</p>		

4. 参加者の感想

- 分りやすい研修内容でした。高校生と保護者と子ども達の交流会の実施内容に興味を持ちました。本校でも取り組んでみたい内容のものです。親学習リーダーの方にアドバイスいただきたいです。
- アクティブラーニングにもなっていて、参加型研修で体験的に学習でき、よかったです。自分も親として見直す機会になりました。授業で活かしていけたらと思います。
- 学校の授業で取り入れるために学ぼうと参加しましたが、私自身が自分の子どもとかかわっている毎日のことを振り返る時間になりました。また、自分の親の姿が浮かび、大切に育ててもらった記憶がよみがえってほっこりした気持ちになりました。ありがとうございました。
- 私が小・中・高校でこんな授業を受けていたら、もっと親の気持ちに気づくことができ、親とぶつからずに済んだこともあったのかなと思います。自分が親にならないとわからないことはたくさんあったけれど、これからは子どもの気持ちを尊重し、子どもの立場から考える親でありたいと思いました。